

EPUが進むべき道

学 長 安 川 正 貴

愛媛県立医療技術大学（EPU）は今年、大学として創立20周年を迎えます。また、愛媛県立医療技術短期大学創立から数えると36周年となります。このような節目の時期にあたり、本学のこれまでの歴史を振り返るとともに、これからEPUが進むべき道を今一度皆さんと一緒に見つめ直してみたいと思います。

本学は、昭和63年に「アートの里」砥部町に愛媛県立医療技術短期大学として産声を上げました。建学の理念は、「生命の尊重」を基本理念として、豊かな人間性と倫理観によって培われた広範な視野と深い人間理解の下に、高度の専門的な知識と技術を備えた人材を育成するとともに、地域に開かれた大学として、教育および研究を推進し、その成果を社会に還元することにより、地域社会における保健、医療および福祉の向上に寄与することとされており、この精神はなんら変わることなく今に受け継がれています。他方、時代の流れと共に、本学に求められる使命も変化し、平成16年に4年制大学愛媛県立医療技術大学として新たなスタートを切りました。また、平成22年には公立大学法人に移行し、平成26年には大学院が開設され現在に至っています。

私は、令和2年に本学学長に就任しましたが、この時5つの目標を掲げて大学運営に当たりたいと考えました。1つ目は、「学生中心の大学」です。学生は大学の宝です。そこで、学生諸君の意見や希望を大学運営に直接反映させるために、毎年1回、各学科、各学年の代表者と教職員が対面で話し合う車座の場を設けました。ここでは我々では気付けなかった様々な意見が提案され、大変有意義な意見交換会となっています。2つ目は、「使命を果たせる大学」です。改めて申すまでもなく、大学の使命は教育と研究です。本学教員の皆さんは日ごろから、教育と研究に熱心に取り組んでいますが、より効率良く仕事に励める環境を提供したいと考えています。3番目の目標は、「国際性溢れる大学」です。これからは地方大学と言えども、国際感覚の涵養は益々重要になってきます。本学は台湾高雄医学大学と国際連携協定を締結しており、両大学の学生の相互派遣と受け入れを行っています。新型コロナウイルス感染の影響で一時中断していましたが今年から再開しました。4つ目の目指すべきことは、「地域に根差した大学」です。本学は地域交流センターを設置し、日ごろから地域住民の方々との交流を促進しています。また、講演会や出前講座などを通してリカレント教育などの人材育成も行っています。新型コロナウイルス流行時には、保健所、療養施設、またワクチン接種会場などに教員を派遣し、医療支援を行いました。これからも、様々な場面での地域貢献を果せる地域に根差した大学でありたいと願っています。最後の目標は、「愛媛に貢献できる大学」です。本学は愛媛県立大学ですので、愛媛に貢献できる人材育成は最も重要な使命と考えています。卒業後は愛媛に留まり、愛媛の医療に貢献できる人材を一人でも多く輩出できるよう、県下の医療機関、行政機関などと手を携えて努力したいと思います。

愛媛県立医療技術大学は大学として創立20周年を迎え、新たな出発点に立つことになりました。大学ならびに医療を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。それらの変化に取り残されることなく、また流されることなく、本学の目指すべき道をしっかりと見つめて立ち止まることなく前進したいと考えています。引き続き皆様のご理解とご支援をお願いして、大学紀要冒頭の挨拶とさせていただきます。